

## 論文の書き方

### 1. 「論文」とは

「先行研究の広いサーベイを行ったうえで既存の学問的知見に対して新しい貢献を目指す」

#### ポイント

- (1) 「先行研究の広いサーベイ」→おろそかにされていることが多い
- (2) 「広いサーベイ」→自分が気にいった論文のみをとりあげない
- (3) 「既存の学問的知見」→「学問的」であること。自分の常識ではない。またマスコミで言われていることでもない
- (4) 「新しい貢献」→「新しい」という点が重要。既存の研究で言われていないこと、間違っていること、古いこと、違う視点での分析が可能なことなど。そのために、既存の研究で何が議論されてきたかを整理することが何よりも必要。

#### 注意

- ① ポイントをしぼる。論点が散漫なケースが多い。
- ② 調べたことを全部書かない。
- ③ 私見（根拠のない断定、提言、感想など）は書かない。必ず根拠を明らかにする。
- ④ 本だけでなく論文を読む。
- ⑤ 孫引きではなく、もとの資料に必ずあたる。

### 2. 構成

#### 例

はじめに（論文の目的）
既存研究のサーベイ
研究の枠組みの提示
分析
結論（おわりに）

#### (1) 論文の目的

まず、自分で「本稿の目的は○○○である」という文章を考えてみよう。

ディベートと同じように考えるといい。ディベートでは、テーマが与えられ、自分の与えられた立場に沿って議論し、説得性を競う。議論の際、時間は限られているので、与えられたテーマに沿わない議論を展開しても、説得力はない。論文もこれと同じ。

## （2）既存研究のサーベイ

関連する主な研究を偏りなく取り上げることが望ましい。それぞれの研究のポイントを要約する。ほかの研究との関連にも注意する（これまでの既存研究動向のストーリーをつくる）。このサーベイによって見出された問題点と、論文の目的とを一致させることが重要。

例①：「既存研究では、〇〇については明らかにされていなかった。そこで本稿では、〇〇を明らかにしたい」

例②：「〇〇の点については、A（2003）が〇〇であることを明らかにし、これに対しB（2005）は〇〇という批判を行い、〇〇であることを主張した。しかし、依然として、〇〇という点は明らかでない」

- ・学情。国会図書館のホームページ（論文コピーを有料で郵送してもらえる）
- ・ほかの論文等の参考文献からたどっていくのが効果的
- ・関連学会をみつけ、その学会誌を調べる。あるいは学会の会長の業績等
- ・政府の関連した審議会などに参加している研究者の業績からたどっていく

## （3）研究の枠組みの提示

- ・（可能であれば）、仮説を提示する

例①：「〇〇を明らかにするために、本稿では〇〇についての統計分析を行った。もし、〇〇である場合、統計分析の結果は〇〇となるものと考えられる」

- ・分析方法（統計分析、アンケートなど）を説明する。

<統計分析>

もともになる統計の概要（総務省『就業構造基本調査』2012年度版など）、変数の統計量（サンプル数、平均、標準偏差、対象年など）の一覧表をつける。

<アンケート>

アンケートの実施日、配布数、回答者数、有効回答率等。質問項目等を明記できればベター。

## 3. 分析

- ・統計分析
- ・アンケート調査
- ・各種資料

- (1) データは1次資料が望ましい。加工されたデータを使う場合、必ず元データの性格（調査の対象、用語の定義、実施時期など）を理解したうえで利用すること。
- (2) ソフトウェアについて
  - ・簡単な計算はエクセル
  - ・もっともわかりやすい統計ソフトはSPSS。そのほかSTATA、SAS、TSPなど。
  - ・数値計算、データ処理ソフトとしては、R、OCTAVEなどは無料だが、プログラミングが難しい。応用範囲は広い。
- (3) 制度研究の場合、関連法令の条文、通知、通達、条例、規則、補助要綱を一度は目に通す。しかし、調べたことをそのまま論文にしない。法令の場合はヤフー検索、条例等の場合は、自治体の例規集。
- (4) 国会、地方議会、審議会等の議事録。

#### 4. データおよび図表の作成

- (1) タイトル、資料出所を図表すべてにつける。
- (2) (資料出所)、(出典)、(出所) など。
- (3) 自分で作成した場合、(資料出所) 筆者作成。と必ず書く。
- (4) 元号は西暦に直す。(論文全体として統一することが望ましい)

図○：タイトルを必ずつけること



(注)。。。。

(資料出所)。。

#### 7. 参考文献

<単著の場合>

小玉徹 (2010) 『福祉レジームの変容と都市再生：雇用と住宅の再構築を目指して』 ミネルヴァ書房.

or

小玉徹 『福祉レジームの変容と都市再生：雇用と住宅の再構築を目指して』 ミネルヴァ書房、2010年.

<編著のなかの論文の場合>

濱田裕美子（2013）「地方自治体による自然エネルギー発電の取り組み」（五石敬路編『東アジアにおけるソフトエネルギーへの転換』国際書院、所収）.

or

濱田裕美子「地方自治体による自然エネルギー発電の取り組み」（五石敬路編『東アジアにおけるソフトエネルギーへの転換』国際書院、2013年、69－103頁）.

or

濱田裕美子「地方自治体による自然エネルギー発電の取り組み」五石敬路編『東アジアにおけるソフトエネルギーへの転換』国際書院、2013年、69－103頁.

<雑誌論文の場合>

五石敬路（2012）「平成の市町村合併における「規模の経済」の検証」『創造都市研究』8(1)、31－45頁.

or

五石敬路「平成の市町村合併における「規模の経済」の検証」『創造都市研究』第8巻第1号、2012、31－45頁.

## 8. 引用文献

（1）注に参考文献のデータをすべて書いても良いが、以下のようなかたちにすれば、省略できる。

例①：五石（2012）によれば、人口1万人未満の自治体のうち9割以上は合併していない

例②：人口1万人未満の自治体のうち9割以上は合併していない（五石 2012、33 ページ）。

例③：五石（2012）によれば、人口1万人未満の自治体のうち9割以上は合併していない（五石 2012、33 ページ）。

（2）ホームページの引用は、アドレス、最終閲覧日を書く。

・ <http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/>、最終閲覧日 2013年7月22日。